

# JSQC ニュース

## CONTENTS

- 1-トピックス 日本クオリティ協議会 (JAQ) 発足について
- 2-私の提言 日本品質管理学会への期待
- 2-ルポルタージュ JSQC規格「新製品・新サービス開発管理の指針」講習会ルポ
- 3-ルポルタージュ 第132回クオリティトークルポ/教員公募/3月の入会者紹介
- 4-行事案内/会員登録情報更新のお願い/論文募集

発行 一般社団法人 日本品質管理学会  
 東京都杉並区高円寺南1-2-1 日本科学技術連盟東高円寺ビル内  
 電話.03 (5378) 1506 FAX.03 (5378) 1507  
 ホームページ:www.jsqc.org/

## 日本クオリティ協議会 (JAQ) 発足について

JAQ事務局/JSQC代議員 新木 純

### 2023年4月に日本クオリティ協議会 (Japan Association for Quality: 略称JAQ) が設立されました。

約8年前の2015年6月、第100回品質管理シンポジウム (日本科学技術連盟主催) にて、大久保尚武氏 (当時JSQC会長) によってアンブレラの連合組織 JAQ が提唱されました。



員会と改称して設立に向けた具体的な最終準備に入りました。特に、JAQの目的と機能の設定に5団体が注力しました。

JAQの目的と機能		JAQ
<b>目的</b> ... 規約 第1条 (目的)	JAQ会員が相互に交流、協力することによって、産業競争力向上のために、ジャパンクオリティのブランド価値を揺るぎないものとするに貢献する	
<b>機能</b> ... 規約 第3条 (機能)	(1) 日本の全産業にまたがって「クオリティの現状」「産業競争力の現状」を情報共有し、必要に応じて公開 (2) 学校教育や企業内研修に対し、因果関係追究・問題解決などクオリティを重視する機会を促す発信機能、ならびに相応しい支援組織を引き合わせる紹介 (3) 品質に関わる事件、事故、不祥事等が発生した際に、社会に向けてその発生プロセスや因果関係の追究に関する適切な示唆を提供できる団体及び個人を行政やメディアに紹介する窓口	

撈では、JAQスタートの役員会と、JAQ発起人の内諾をいただいていた豊田章一郎氏のお別れの会が偶然同日となり、品質管理を大切にしてこられた同氏の思いをJAQとして受け止め繋いでいくことが大切だとのお話でした。

続く来賓の大久保尚武氏は、品質5団体が小異を捨てて大同に就いて、「日本高品質ブランドの確立」がなされることに期待を寄せられました。続いて中期計画等の審議・報告がありました。



2022年11月、JAQの最高決議組織として5団体トップが一堂に会する第1回役員会を開催しました。JAQ設立に必要な規約、行動規範、組織体制等の審議・承認がなされ、会の最後に



(後列) 日本能率協会 中村会長 品質工学会 橋本会長  
 (前列) 日本科学技術連盟 佐々木理事長 日本品質管理学会 永田会長 日本規格協会 朝日理事長

項目	2023-2025 中期計画			
	23年度	24年度	25年度	26年度
全体	JAQ設立	品質月間発表	品質月間発表	品質月間発表
1. 現状のクオリティと産業競争力の関係の共有・公開	1)取組～発信の軌跡を整理 2)インフラ整備 3)運用	4Q～2024年計画 品質月間発表 品質月間発表	品質月間発表 品質月間発表 品質月間発表	品質月間発表 品質月間発表 品質月間発表
2. クオリティ情報の整理を促す情報発信・紹介	1)取組～発信の軌跡を整理 2)インフラ整備 3)運用	4Q～2024年計画 品質月間発表 品質月間発表	品質月間発表 品質月間発表 品質月間発表	品質月間発表 品質月間発表 品質月間発表
3. 品質不正防止に向けた適切な示唆の紹介窓口	1)品質不正防止の取組を整理 2)品質不正防止の取組を整理 3)品質不正防止の取組を整理	品質月間発表 品質月間発表 品質月間発表	品質月間発表 品質月間発表 品質月間発表	品質月間発表 品質月間発表 品質月間発表

会の最後に、5団体トップの方々からこれからのJAQへの期待を、ひとつずつ披露していただきました。「日本を代表する組織に」「HPを通して世界へメッセージを」「品質不正防止はJAQとしての最優先」「JAQを通じた国際的な連携を」「情報発信による認知度向上を」「スモールスタート、必要性の高い事から」等。

今後は、各団体からの様々な期待を受け止め、適切な品質管理活動を軸に捉え、国内外に示せるようにしていければと思っております。今後とも、JSQC会員の皆様のご理解ご協力をお願い申し上げます。

提唱後は、3団体 (日本品質管理学会、日本科学技術連盟、日本規格協会) による三者調整会議において、JAQの役割・活動内容等について調整推進しました。その後改称されたJAQ連携協議会では、更に2団体 (日本能率協会、品質工学会) が加わり、闊達な意見交換をしました。

2021年12月には、JAQ設立準備委

年月	14/11	15/11	16/11	17/11	18/11	19/11	20/11	21/11	22/11
会長	大久保	橋本	橋本	橋本	橋本	橋本	橋本	永田	永田
組織名	三者調整会議			JAQ連携協議会				JAQ設立準備委員会	
活動	15/5 三編調整会議 (大久保・小大塚・橋本)にて、カブの組織の検討を含む	16/10 品質管理フォーラムでJAQ構想発表	16/10~17/9 三編調整会議	18/2 三編調整会議 (大久保・小大塚・橋本)にて、JAQ設立宣言書発表	18/11 品質月間発表 (代表発起人・発起人に依頼)	19/11 品質月間発表 (代表発起人・発起人に依頼)	20/10 品質月間発表 (代表発起人・発起人に依頼)	21/12 JAQD 役員・機能検討	22/11 役員・定款検討 第1回役員会
参加組織	日本品質管理学会		日本科学技術連盟		日本規格協会		日本能率協会 品質工学会		

JAQ設立合意書へのサインが交わされました。

設立合意書の通り、設立準備を着実に進め、2023年4月、ようやくJAQが設立されました。

同月24日、(JAQとしての最初の行事となる第2回役員会を開催しました。冒頭の永田靖代表役員 (JSQC会長) の挨拶

## ● 私の提言 ●

## 日本品質管理学会への期待

ダイハツ工業 森本 国浩



品質保証に携わる立場から、JSQCへの期待を述べさせていただきます。

企業における品質保証レベルは、確実に向上してきていると思いますが、それでも新たな問題は起こります。

その度に、「この要因は、本来どのプロセスで保証されるべきだったか？」と振り返る毎日ですが、多くの事例を見てきて、やはりとても重要だと思ふことが二つあります。

一つは、「品質マネジメントシステム（しくみ）の質」です。

お客様にご提供する製品・サービス

の質も、そのための個々の仕事の質も、しくみで担保されていることが大事だということです。当たり前のことと思われるかもしれませんが、問題の原因を紐解くと、個人スキルや経験に依存しており、しくみで保証できていないことがまだまだ多いと感じています。

また、昨今は、コト事業、データ駆動経営、サプライチェーンの拡大等、従来のしくみでは担保が難しい課題も増え、その重要性は更に増していると思います。

二つめは、「現地現物の拘り」です。コロナの影響で、現地現物の機会が減り、リモートでの業務が増え、パソコンに映る画像やデータだけでなんとなく分かった気になってしまいがちですが、やはり多くの真実は、現地に行き、

現物を見て触り、なぜ？と考えることで初めて解明されます。先日も、品質問題のあった海外の取引先様の現場でいろいろと確認させていただくと、技術的な発生原因の背景に、コロナの影響で日常管理を維持できない人員で稼働されており、真因は運営面にあるとわかりました。本質的な課題に言及するには、現地現物の拘りが絶対条件であると改めて痛感しました。

品質立国を目指す上での課題は、この二点だけでなく多岐にわたると思いますが、諸課題への対応は常に後手に回っている印象です。

JSQCは、品質に関する世の中の変化や現実的な課題にいち早く対応し、抛り所となる考え方や対応方法をタイムリーに示すことが期待されていると思います。

また、そのために、学会員の皆様と現場のリアルな課題や対応論についても議論しあい、活動を活性化していくことが大切であると考えます。

私も微力ではありますが、皆様と一緒に取り組んでまいります。

### JSQC規格 講習会 レポート

#### 「新製品・新サービス開発管理の指針」 —顧客・社会のニーズをもとに 新たな価値を創造する—

2022年12月14日(水)、JSQC規格「新製品・新サービス開発管理の指針」の講習会がオンラインで行われ、35名の方が参加されました。

今回は、JSQC規格「新製品・新サービス開発管理の指針」原案作成委員会委員長である永原 賢造氏が、経験による事例を交え、現場に直結した内容で話されました。

顧客価値の複雑化・複合化、及び生産環境の変化が大きい中で、顧客の満足を得るためには、企画から回収・再利用までの開発プロセスにおいて、自工程完結を目指すプロセス保証と、情報と知識の共有化を目指す部門間連携などにより、体系的な開発管理を行う事が重要であると説明されました。

新製品・新サービス開発管理におけるマネジメント活動の進め方については、各プロセスの達成度を明確にするなど、開発プロセスの見える化を計ることが重要である。また、ボトルネック技術の特定とブレーク

スルー、設計における標準化、及び失敗や成功の事例に基づく開発プロセスの見直しなどを行う事が重要であると言う事でした。

参考事例として、日系企業の国際競争力低下は、企業の内向きの体質、市場のスピードについていけないためであり、節目管理による迅速な意思決定、及び機会と驚異への素早い対応などが必要であると言う話がありました。

新製品・新サービス開発管理のためのツールについては、品質機能展開、実験計画法などの使い方と注意点を説明されました。

最後に、永原 賢造氏の体験に基づく事例として「設計・工程設計プロセスの改善を指向した実施例」が紹介されました。その内容は、市場流出不具合の70%以上が、源流部門（設計・工程設計）によるもので、この部門のプロセス改善が必要だと言うことでした。

今回の講義は、JSQC規格「新製品・新サービス開発管理の指針」の説明を実例と共にされたので、新製品・新サービスの開発管理をどのように適用するか明確になり、有意義な講習会でした。

岡田 俊 (株)LDD)

## 第132回 クオリティーク ルポ

### 問題解決実践の組織的 展開推進の悩みと解決策

日本品質管理学会主催のクオリティークが2月9日(木)にオンラインにて開催された。本学会のフェローおよび監事である熊井秀俊氏を講師に迎え、参加者は約35名程度であった。問題解決するにあたり様々な要因が挙げられるが、仕事が忙しく全く手つかずの状態になっているのが現状である。その為、どのように遂行していけば問題が解決するのか改めて考える必要があり、今回の講義に参加した。

結論として「目的」の理解不足が最大の原因であり、方法から入るのではなく、目的から入ることを徹底することがキーであることを学んだ。また実施策として、なかなかトップは参加せず丸投げすることが多いが、トップに対しても「方法」の前にまず「目的」の徹底をする、「人材育成」も大きな狙いである、かなり密に「コミュニケーション」をとるといったことが重要

であることを述べていた。まず、問題解決では「現状」と「ありたい姿」のギャップの問題を解消することが問題解決につながる。また人材育成については、忙しいからといって人を育てず結果ばかり求め、プロセスを軽視すると人材は育っていかない、組織力が弱い、働いていてもつまらないといった負の連鎖が起き、忙しさは解消されない。コミュニケーションについては、井戸端会議のような密なコミュニケーションをとり、自分の言葉で心理的距離を詰め、寄り添って信頼関係を築くことにより難しい「目的」について伝えられるようになる。

また分からない事柄が出てきたら、重箱の隅をつつきヒモといて聞くことで言葉の定義を明確化し、定義が曖昧なままシステム化してトラブルを発生させないことが重要であることが述べられた。

この講義を通して、小集団活動の問題解決の難しさを改めて感じた。現段階では全くと言っていい程出来ていないため、本講義の内容を今後の問題解決の手法に取り入れ、大いに活かしていきたい。

新井 啓太 (コージンバイオ株)

## 教員公募

### 慶應義塾大学 理工学部管理工学科/ 大学院理工学研究科 (オープンシステムマネジメント分野)

**募集人員** 准教授、専任講師、専任講師(有期)、または助教(有期)1名  
**所属** 慶應義塾大学 理工学部 管理工学科  
慶應義塾大学大学院 理工学研究科 開放環境科学専攻(オープンシステムマネジメント専修)  
**研究分野** インダストリアルエンジニアリング、生産マネジメント、モノづくり、物流のいずれかの分野(以下、IE分野と略記)  
IE分野の理論と実践に精通し、国際的な視野で管理工学を踏まえた最先端の研究を進められ、当該分野の理論と実践に基づく教育もできる人材を求める。  
**着任時期** 2024年4月1日  
**応募締切** 2023年6月30日(金)必着  
**詳細** 慶應義塾大学 教員公募  
[https://www.st.keio.ac.jp/corporations/recruit/20230324\\_01.html](https://www.st.keio.ac.jp/corporations/recruit/20230324_01.html)

### 青山学院大学 理工学部経営システム工学科

**募集人員** 教授または准教授1名  
**所属** 理工学部経営システム工学科  
**研究分野** 経営システム工学(データサイエンス領域)  
統計的手法、機械学習、人工知能などの広い意味でのデータサイエンスの方法論を用いて、社会や企業が抱える諸問題の解決を支援する研究  
**着任時期** 2024年4月1日  
**応募締切** 2023年7月14日(金)必着  
**詳細** 青山学院大学 NEWS(採用情報)  
[https://www.aoyama.ac.jp/recruit\\_info/2023/20230425\\_scis\\_03.html](https://www.aoyama.ac.jp/recruit_info/2023/20230425_scis_03.html)

## 2023年3月の 入会者紹介

2023年3月23日の理事会において、下記の通り正会員3名、準会員3名の入会が承認されました。

### (正会員3名)

○高橋 正範(スピードファム) ○渡部 純・大浦 久美(アルバック)

(準会員3名) ○JEONG SEGWON(中央大学) ○阿部 哲也(電気通信大学) ○古内 駿也(慶應義塾大学)

名誉会員：25名

正会員：1641名

準会員：55名

職域会員：50名

賛助会員：154社227口

賛助職域会員：12名

公共会員：15口

## 行事案内

### ●第10回 科学技術教育フォーラム

テーマ：科学技術立国を支える問題解決教育  
—デジタル時代の人財育成と  
科学的問題解決プロセス—

日時：2023年5月20日(土)13:30~18:00

会場：Zoomミーティング(オンライン)

プログラム：

第1部 特別講演

2021年度デミング賞本賞受賞者講演  
「データサイエンスによる問題解決の  
標準シナリオ」

椿 広計 氏 (統計数理研究所)

「新学習指導要領における情報活用能  
力と科学的問題解決」

田崎 文晴 氏 (国立教育政策研究所)

「新学習指導要領における統計的な推  
測と科学的問題解決」

小林 廉 氏 (国立教育政策研究所)

「算数・数学の教科書の世界的潮流に  
関する調査研究」

深澤 弘美 氏 (東京医療保健大学)

「トヨタ自動車九州における粘土を教材  
とした問題解決とデータサイエンス」

高倉 宏 氏 (トヨタ自動車九州)

則尾 新一 氏 (トヨタ自動車九州)

茅野 真雄 氏 (慶應義塾横浜初等部)

第2部 総合討論

詳細・申込：[https://jsqc.org/10tqe\\_f/](https://jsqc.org/10tqe_f/)

### ●第131回研究発表会(本部)

日時：2023年5月27日(土)10:00~19:00

会場：日科技連・東高円寺ビル

プログラム：

10:05~10:55

チュートリアルセッションA

「組織で保証する医療の質 QMSア  
プローチ」

棟近 雅彦 氏 (早稲田大学)

### 「品質」誌、投稿論文の募集!

会員の方々からの積極的な投  
稿をお勧めします。投稿区分は、  
報文、技術ノート、調査研究論  
文、応用研究論文、投稿論説、  
研究速報論文、クオリティレポ  
ート、レター、QCサロンです。

論文誌編集委員会

11:00~11:50

チュートリアルセッションB

「相関と因果の違いを考える」

黒木 学 氏 (横浜国立大学)

13:00~17:05 研究発表会

17:15~19:00 情報交換会 優秀発表表彰

申込締切：2023年5月19日(金)

詳細・申込：<https://jsqc.org/131technical/>

### ●第132回研究発表会(中部) 発表募集

日時：2023年8月30日(水)

会場：名古屋工業大学

(1) 申込期限

発表申込締切：5月31日(水)

予稿原稿締切：7月21日(金)必着

参加申込締切：8月23日(水)

(2) 研究発表・事例発表の詳細・申込方法

<https://jsqc.org/132technical/>

(3) 参加申込

7月上旬頃にホームページにてご案内します

### ●第137回QCサロン(関西)

テーマ：ミドルマネジメントからつくる  
心理的安全性

ゲスト：住本 裕司 氏 (ダイハツ工業)

日時：2023年6月6日(火)19:00~20:30

会場：Zoomミーティング(オンライン)

詳細・申込：<https://jsqc.org/137qcsalon/>

### ●JSQC規格「品質管理教育の指針」講習会

日時：2023年6月8日(木)13:30~17:30

会場：Zoomミーティング(オンライン)

講師：光藤 義郎 氏 (日本科学技術連盟)

プログラム：

1. JSQC規格「品質管理教育の指針」  
制定のねらい

2. 品質管理教育の基本(4章、5章)

3. 品質管理教育の計画(6章)

4. 研修プログラムの運営(7章)

5. 品質管理教育の評価・改善(8章)

6. TQM推進段階別・部門別・地域  
別の品質管理教育(9章、付録)

7. 質疑応答

詳細・申込：[https://jsqc.org/std41-001\\_2023/](https://jsqc.org/std41-001_2023/)

### ●第134回クオリティトーク(東日本)

テーマ：食の安全：HACCPの本質を理  
解してISO22000を使いこなす

ゲスト：荒木 恵美子 氏 (東海大学)

### 会員登録情報 更新のお願い

会員登録情報は、学会ホーム  
ページから確認・修正変更する  
ことができます。

転動や異動など会員登録情報  
に変更がありましたら、「会員  
データベース(会員専用ページ)」  
より更新してください。

日時：2023年6月23日(金)13:00~15:30

会場：Zoomミーティング(オンライン)

詳細・申込：<https://jsqc.org/134qtalk/>

### ●第436回事業所見学会(中部)

テーマ：DHLが考える品質とは(Service、  
People、Environmentなど)

日時：2023年6月27日(火)12:30~17:00

見学先：DHLジャパン(株)

中部国際空港ゲートウェイ

定員：16名

※同業他社のお申し込みはご遠慮ください。

申込締切：2023年5月26日(金)

詳細・申込：<https://jsqc.org/436visit/>

### ●第133回研究発表会(関西) 発表募集

日時：2023年9月8日(金)10:00~16:15(予定)

会場：関西大学 千里山キャンパス

特別講演：荒木 孝治 氏 (関西大学)

(1) 申込期限

発表申込締切：7月28日(金)

予稿原稿締切：8月25日(金)必着

参加申込締切：9月6日(水)

(2) 研究発表・事例発表の詳細・申込方法

[https://jsqc.org/133technical\\_cfp/](https://jsqc.org/133technical_cfp/)

(3) 参加申込の詳細・申込方法

<https://jsqc.org/133technical/>

### 事務局

JSQCホームページ：[www.jsqc.org/](http://www.jsqc.org/)

本部：166-0003

杉並区高円寺南1-2-1

日本科学技術連盟 東高円寺ビル内

E-mail：[jimukyoku@jsqc.org](mailto:jimukyoku@jsqc.org)

TEL：03-5378-1506

FAX：03-5378-1507

中部支部：E-mail：[nagoya51@jsa.or.jp](mailto:nagoya51@jsa.or.jp)

TEL：050-1742-6188

FAX：052-203-4806

関西支部：E-mail：[kansai@jsqc.org](mailto:kansai@jsqc.org)

TEL：06-6341-4627

FAX：06-6341-4615